

会本部
士本
術国
技中

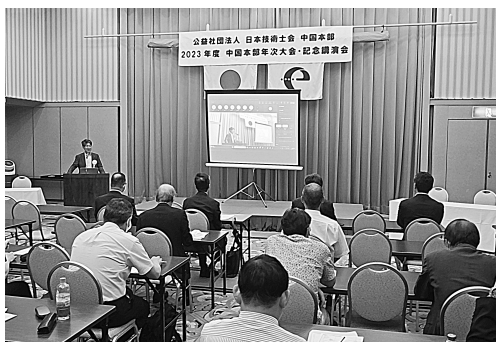
福田新体制がスタート

23年度年次大会を開催

日本技術士会中国本部（福田直三本部長）は8日、広島市中区の広島市文化交流会館で2023年度年次大会を開いた。年次大会には、オンライン参加も含めて約200人が出席。技術士の資質



福田新本部長



年次大会のもよう

向上や地位向上につながる活動を盛り込んだ23年度の事業計画などが報告された。今年5日にあった理事会で新本部長に就任した福田本部長は開会あいさつの中で「変化する社会

環境などに対し、専門技術だけでは解決できない課題が山積している。そのため、技術士会には、専門知を結集して総合知を発揮するプラットフォーム的役割が求められている」と指摘。その上

で「それぞれが継続研鑽し、その結果を人材育成につなげることが大事であることを再認識してもらいたい」と呼びかけた。

大学・高専との連携協力協定に基づき、教員や学生へ技術士試験制度及び初期専門能力開発（IPD）の普及・啓発に努めることも確認。このほ

続いて、中国地方整備局技術士会で会長を務める荒木勲中国地方整備局中国道路メンテナンスセンター長や、広島県庁技術士会を代表して高田善雄広島県農林水産局農林基盤整備部長らがそれぞれ来賓あいさつ。

これらを説明したあとは、本部長を10年間務めた大田一夫氏と、副本部長を14年間務めた住居孝紀氏に感謝状を授与。大田氏は名譽本部長、住居氏は参与にそれぞれ就任し、感謝状を受けた大田氏は「これからは名譽本部長という肩書きで、幹事時代を合わせて約4半世紀にわたる役員での経験をいかし、福田新体制をしっかりとサポートしていきたい」とお礼の言葉を述べた。

その後、22年度の事業報告や23年度の事業計画などが説明された。22年度はCPD行事実績として187時間（参加者数5491人）を提供したことを報告。事業計画では、遠隔地でも参加しやすいハイブリッド形式によるCPD行事や会議の開催に向け、Web配信に積極的に取り組むことを申し合わせた。また、

大学・高専との連携協力協定に基づき、教員や学生へ技術士試験制度及び初期専門能力開発（IPD）の普及・啓発に努めることも確認。このほ